

Course number		U-LAS40 20021 LJ26					
Course title (and course title in English)		薬用植物学 Pharmaceutical Botany		Instructor's name, job title, and department of affiliation		Graduate School of Pharmaceutical Sciences Associate Professor, ITOU MICHIO	
Group		Health and Sports		Field(Classification)		Health and Sports Sciences(Development)	
Language of instruction		Japanese		Old group		Group B	
Number of weekly time blocks		1		Class style		Lecture (Face-to-face course)	
Year/semesters		2024・First semester		Number of credits		2	
Days and periods		Mon.1		Target year		Mainly 1st & 2nd year students	
Eligible students		For all majors					
[Overview and purpose of the course]							
<p>植物は人間の文化の中で利用されることで薬用植物になる。生えているだけでは薬用たりえない。本講義では、ヒトと植物の関わりについて「健康」をキーワードに様々な視点から考え、また体験することを目的とする。具体的には、身近な野山に生息する薬用植物、台所にある香辛料、世界中から集められる医薬品原料植物、麻薬植物、有毒植物などについて、可能な範囲で実物を紹介しながら講義する。</p>							
[Course objectives]							
<p>京大キャンパス内、また身近な野山にある薬用植物に気づけるようになり、その香りや味の安全な体験方法を身につけ、生体に対する作用を理解し、説明することができるようになる。必要に応じて、薬用植物のにおいや色、薬理作用の原因となる化合物について、化学構造式等を用いて説明することができるようになる。</p>							
[Course schedule and contents]							
<p>1) 薬用植物学とその関連領域 2) 植物を扱う際の基本事項 3) 薬学研究科附属薬用植物園の見学 4) 薬用植物・天然薬物の特徴 5) 薬用植物の分布と生態 6) 薬用植物利用の実際 7) 薬用効果に関わる成分 8) 植物は成分をどうやってつくるのか 9) 身の回りの毒 10) 薬毒同源 11) 食素材中の薬素材分子 12) 植物バイオテクノロジー 13) 世界的な薬用植物利用の実際 14) 伝統医療と薬用植物</p>							
[Course requirements]							
None							
[Evaluation methods and policy]							
<p>出席と参加の状況20～40%、定期試験60～80%を目安に成績評価を行う予定。4回以上欠席した者には原則として単位を認めない。小テストでは、主に当日の授業に関連する課題や要点について、</p>							
Continue to 薬用植物学(2)							

薬用植物学(2)

また各個人が課題について考えた内容等について問う。定期試験では、各種の薬用植物を五感で知り、また他人に説明できる程度の基礎的知識を備えているか、薬用という視点からみた天然資源について重要事項が理解できているかについてなどが問われる。

[Textbooks]

Not used

授業中にノートがとりきれないような複雑な情報（例えば成分の構造式など）はKULASISの「授業サポート」になるべくアップロードするので、各自でダウンロードして利用すること。

[References, etc.]

（References, etc.）

伊藤美千穂、北山隆監修、原島広至著『生薬単 第3版（最新版）』（丸善）

[Study outside of class (preparation and review)]

授業前に予習や準備が必要な場合は、その都度授業の中で、またはKULASISから指示する。毎回の授業後に、授業中に回覧した試料や講義で紹介した薬用植物類について、さらに詳しく各自で調べておくことが望ましい。

[Other information (office hours, etc.)]

五感で薬用植物を覚えてもらうため、出来るだけ多くの実物を紹介する予定である。薬学部の学生で、3回生担当の「天然物薬学3（漢方・生薬学）」を履修予定の者は本講義を履修しておくこと。